

2026年1月25日主日礼拝説教要約
主があなたとともにおられる

(ヨシユア1・1～9)

一、ヨシユアに授けられた使命

1節、2節を見てまいります。〈主のしもべモーセの死後、主はモーセの従者、ヌンの子ヨシユアに告げられた。」「わたしのしもべモーセは死んだ。今あなたとこの民はみな、立ってこのヨルダン川を渡り、わたしがイスラエルの子らに与えようとしている地に行け。〉とあります。時は、紀元前1300年頃です。主がモーセに続く指導者として選ばれたのは、ヌンの子ヨシユアでした。ここに、〈モーセの従者〉と記されていますが、ヨシユアの特長は、一にも二にも、モーセの従者であったことです。その意味は、主に従うモーセに、ヨシユアもお従いしたという意味です。2節2文目に〈今、あなたとこの民はみな、立ってこのヨルダン川を渡り、わたしがイスラエルの子らに与えようとしている地に行け〉とあります。この時、ヨシユアとイスラエルの民はどこにいたのでしょうか。ヨシユア記は、その前の申命記とつながっています。申命記の舞台は1章3節と5節を見るときに分かります。申命記の舞台は〈第四十年の十一月の一日〉です。第四十年とは、エジプトを脱出した年を「第一年」としての「第四十年」の意

味です。モーセが新しい世代のイスラエルの民に語りかけたことが、申命記に記されています。場所はどこだったのでしょうか。〈ヨルダンの川向こう、モアブの地〉です。〈ヨルダンの川向こう〉とは、どちらの側から見ての〈川向こう〉なのでしょう。主が賜ると言われた、約束の地カナンの側から見ての〈川向こう〉です。申命記は34章まであって長いですが、申命記の終わりのほうの日付はいつになるのでしょうか。同じく、第四十年の十一月の一日ということになります。29章14節、15節より分かります。あの長い申命記ですが、申命記によれば、たった一日のうちに語られ、起きた出来事として記されています。

ヨシユア記1章3節、4節を見てまいります。〈わたしがモーセに約束したとおり、あなたがたの裏で踏み場所はどことなく、すでにあなたがたに与えている。あなたがたの領土は荒野からあのレバノン、そしてあの大河ユーフラテス川まで、ヒッタイト人の全土、日の入る方の大海までとなる。〉とあります。主の、すごい約束ですね。あなたがたが足の裏で踏み場所はどことなく、すでにあなたがたに与えているは、今日の価値観とは相容れませんが、ユダヤ教、キリスト教を攻撃しようとする人の、格好の文言になりますね。私たち信仰者は、このことばを普遍的に

適用する気持ちは、少しありません。ですが私は、主が約束された地はイスラエルのものである、という考えを持っています。

二、「ともにいる」という不思議

そういう背景があったことも意識しつつ5節を見てまいります。〈あなたの一生の間、だれ一人としてあなたの前に立ちほだかる者はいない。わたしはモーセとともにいたように、あなたとともにいる。わたしはあなたを見放さず、あなたを見捨てない。〉とあります。主はヨシユアに語られました。「わたしはモーセとともにいたように、あなたとともにいる」と。「主がともにおられる」とは、まさしく不思議中の不思議かと思えます。私共は、そこに神の见えない御手を見いだします。アブラハムのことを思い起こしてください。多くの失敗をしました。ですが、真摯に主を見上げ、主にお従いしたゆえに、神はアブラハムとともにいることをあらわしてくださいました。ダビデも同じです。取り返しのつかない罪を犯しました。しかし主は、神の前に何の言い訳もしないでお従いして行くこととするダビデとともにおられました。もちろんダビデは、犯した罪のゆえに徹底的に償いをさせられました。主イエス・キリストの誕生の箇所を思い起こしてください。マタイの福音書1章23節、24節は語っ

ています。〈このすべての出来事は、主が預言者を通して語られたことが成就するためであった。」「見よ、処女が身こもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」「それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という意味である。〉と。神が、私たちと同じ「肉」(「人」となれた主イエスこそ、神がともにおられるお方でした。そして、死者の中から復活させられたイエスさまは弟子たちに語られました。〈見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。〉(マタイ28・20b)と。

ヨシユアはその生涯の中で、「わたしはモーセとともにいたように、あなたとともにいる」という不思議を幾度も経験しました。ですがそれは、ヨシユアの信仰深さから来るものではなく、1章8節にありますように、〈このみおしえの書をあなたがたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさめ。そのうちに記されていることすべてを守り行つためである。そのとき、あなたは自分がすることと繁栄し、そのとき、あなたは栄えるからである。〉から来る、神の不思議なみわざでした。〈このみおしえの書をあなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさめ〉は、新約に生きる私共に適用するなら、〈みおしえ〉そのものであられる、主イエス・キリストに信頼することです。